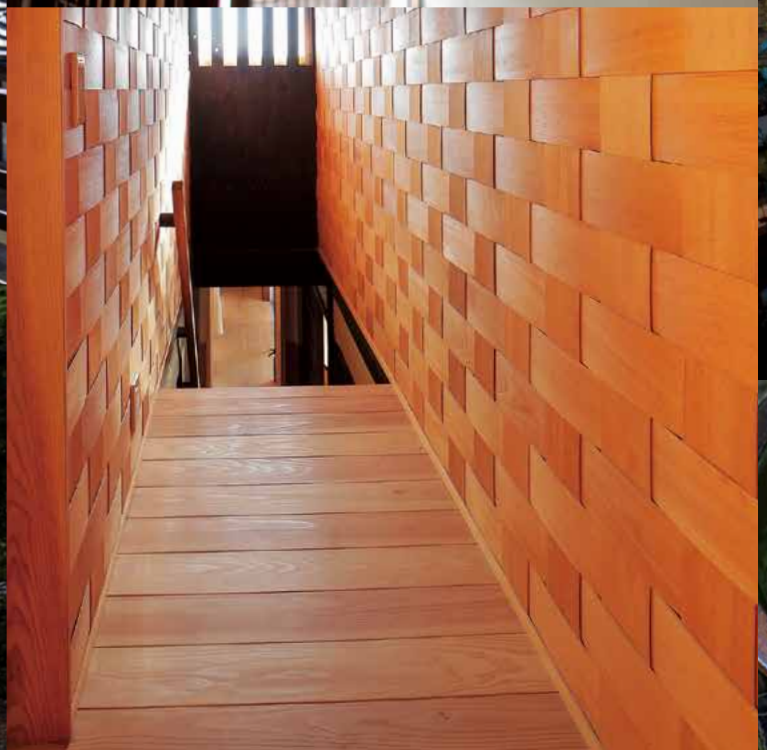
Uchiko inn
travel like a rocal

内子 宿景色

暮らすように旅するまち

Uchiko inn
travel like a rocal
内子町ビジターセンター A・ろんぜ
TEL/0893-44-3790　FAX/0893-44-3798　http://www.we-love-uchiko.jp

QR Translator



古民家ゲストハウス&バー　内子晴れ

アートが香る宿

Uchiko inn
travel like a rocal

ほんのりと
丸みを帯びた炎は
この町に息づく
アートなおもてなし。

やわらかな明かりに
浮かび上がる情緒。
和ろうそくや木工細工、
手すき和紙など
昔ながらの手工が
受け継がれてきた内子町は
アートを感じさせる
クラフトマンの町。
包み込むのは伝統の「用の美」。

自由に旅を楽しむ

古民家ゲストハウス＆バー 内子晴れ

客室はドミトリーが２部屋と２名まで宿泊できる個室が１部屋。木材を網代風に編み込んだ装飾など、フォトジェニックなしつらえはインバウンダーからも人気です。三五八で漬け込んだ発酵食品を使うランチプレートなど、オリジナルのおもてなしも好評。

P22　3-B

内子町のたおやかな営みとあたたかい人、そして受け継がれてきた伝統文化に惹かれて移住する人が増えています。「内子晴れ」を営むのも、そんな移住者のひとり。県外で活躍している建築家やデザイナーらを仲間に、建築から170年を経た古民家をリノベーションして、ゲストハウスをオープン。その感性は長い時を経てなお町並みに残っていた建物に新たな命を吹き込みました。和紙や木材など、内子町の素材をしつらえに用いているのも大きな特徴です。

また宿泊者だけではなく、日帰りの観光客や地元の方が気軽にコミュニケーションできる場としての機能も持たせており、地元のお酒や手づくりのこだわり料理でくつろげるカフェ＆バースペースも用意。「ここで会話や情報交換を楽しんで、ガイドブックに頼らない旅を楽しんでもらえれば…」。そんな宿主のあたたかい想いが息づく、素敵な場所となっています。

上質感に包まれて

HOTEL こころ．くら

庭に面した書斎スペースは、まるで文豪が逗留する宿のような趣。通りの駐車スペースから少し奥まったところに位置しており、居間からはプライベートガーデンへと出られます。上質感漂う空間を満喫でき、アメニティも充実しています。

P22　4-B

「HOTEL こころ・くら」は、その名の通りに明治時代の土蔵を改装した和モダンの宿。客室は全2室、メゾネット形式になっており、いずれも1階にリビング、2階にベッドルームをしつらえています。リビングからはプライベートガーデンに出ることができ、下駄履きで庭を愛でるのもとても洒落ています。商店街に面していますが、前面が駐車場になっているのでその賑わいは宿の中には届きません。まるで深山の別荘やリゾートホテルに逗留しているような、贅沢な気分にひたることができます。客室はそれぞれインテリアが異なるので、部屋を変えて宿泊するリピーターも多いそう。「こころ」と同様に夕食は近隣の食事どころや居酒屋を紹介してくれるので、旅先の夜を自分流に過ごしましょう。

一棟貸し切りの贅沢

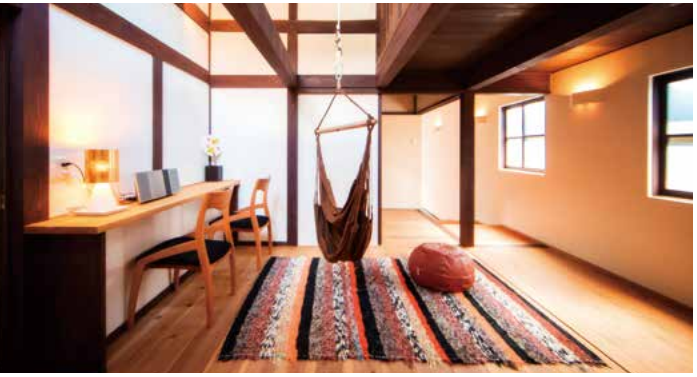
内子の宿　織

町並みにひっそりとたたずむ古民家で、「暮らすような旅」を楽しむならこの宿がおすすめ。2階建ての建物をまるまる一棟貸し切りにて利用することができます。広い玄関土間、裏庭をのぞむ和室、大きくとった窓から自然の移ろいを眺めながら湯浴みできる浴室。3部屋の寝室の他にも隠れ家のような小部屋がいくつかあり、思い思いの時間を過ごすことができます。

6名まで利用できるので、グループ旅行や三世代の旅、女子旅など、さまざまなシーンに対応できるのも嬉しい限り。キッチンもあるので、内子町の食材を使った自炊も可能。地物野菜をふんだんに使った朝食のオーダーも可能です。

古い建物が醸し出す威厳を尊重しながらも、古民家を和モダンテイストにリノベーション。八日市・護国の町並みに面していながら、館内は静寂と落ち着きに包まれており、里山を訪ねたかのような情緒にひたることができます。

P22　3-B



利用は１日1組限定。町並み保存地区にあるので、観光を楽しんだ後、そのままステイすることができます。夕食は内子の飲食店でこの土地ならではの味わいに舌鼓を。オプションで朝食のオーダーをするのも OK。各部屋ともにモダンなテイストにリノベーションされており、ラグジュアリーな空気感も魅力となっています。

P22　2-B

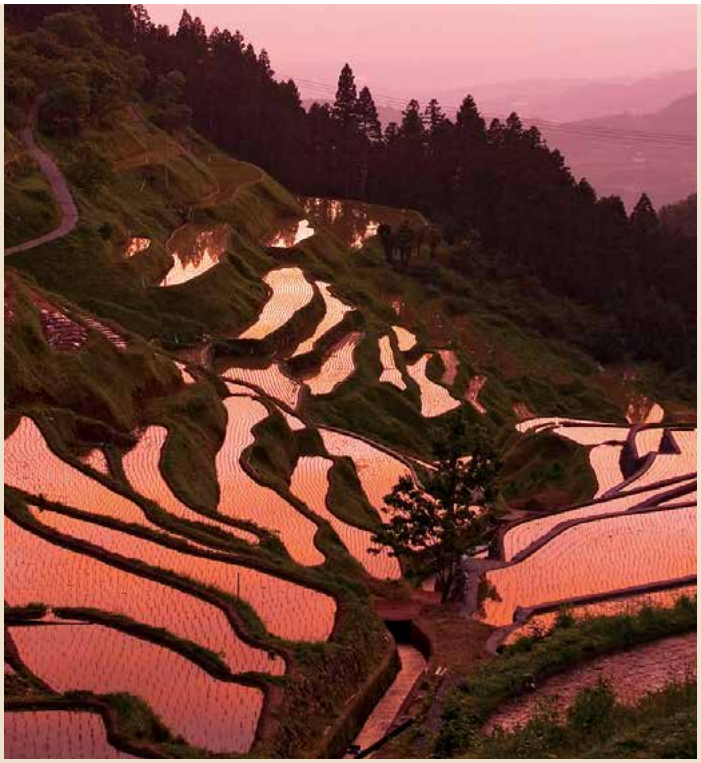
モダン&スタイリッシュ
内子の宿　久

「織」と同様に、一棟貸しの贅沢を満喫できるのが、古民家をリノベーションしたこの宿。最大6名まで利用することができ、別荘感覚のステイを満喫できます。この宿のシンボルとも言えるのが、床暖房付きのピットリビング。床のレベルを下げて、快適なソファをしつらえており、ちょっと目線を下げることで、建物の風情を心ゆくまで味わうことができるスペースです。ここで会話を楽しんだり、お酒を酌み交わしたりするのは珠玉の時間。ついつい時間を忘れてしまいそうです。

寝室は2階に洋室と和室が各1部屋ある他、離れの和室も用意。程よい距離感なので、グループ旅行でも気兼ねなく休むことができます。また清々しい木の香に包まれながら湯浴みできる檜風呂、プライベートな時間を過ごせる庭もあり、上質で豊かな旅のひと時を演出してくれます。

内の小話 その1

目の前の自然は天然のパントリー。そこに人々の知恵が加わり身体が喜ぶご馳走に。



身土不二という言葉があります。もともとは仏教用語でしたが、大正時代に食養運動のキャッチフレーズとなったことから、広く一般に知られるようになったそうです。「その土地の旬の食 材や伝統食は身体に良い」という意味で、地産地消の考え方のもとにもなっているようです。海辺の町であれば新鮮な海産物、山であればジビエや山菜など、その土地ならではの「食」は旅の楽しみのひとつ。県都・松山市から車で30分、特急列車ならわずか25分という近距離に位置する内子町の「食」の名物は…と聞かれたら、地元の人は「特にないなぁ」というかもしれません。ところが、「特にない」ことこそが、内子町の「食」の魅力。

白壁・土蔵造りの建物が並ぶ町の中心部は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されていることで知られています。そこからほんの少し足を伸ばせば、のどかな「村並み」を目にすることができます。山の斜面に整備された棚田では、清水と人の手によって育まれた美味しい米や蕎麦が収穫できます。山間の地域の気候を生かして栽培されているのは、ぶどうやリンゴ、梨などの果実。山から流れ出た清流には川魚が跳ね、山菜やキノコ類も豊富に収穫されています。こうした天然の恵みを当たり前のように味わえます。

また内子町は加工品の製造も盛ん。この地で肥育された内子豚などを素材にした、ドイツ・ローテンブルクのマイスター直伝のハムやソーセージは町の名物となっています。さらには放牧牛の生乳を使ってつくられる山のチーズは、豊かな内子町の自然と季候により生まれた新たな特産品として話題に。豊富にとれるぶどうは、生産者が設立したワイナリーにより芳醇なワインとして出荷され、近年はご当地どぶろくも広く知られるようになっています。

食材を慈しむ想いを持った人々が生み出す美味の数々。実は、これこそが内子町の食を「特別」なものにしているのです。この町は身体が喜ぶご馳走の宝庫なのです。

山間地域の自然環境が育んだ食材は、ココロもカラダも元気にしてくれる貴重なものばかり。それら自然からの贈り物を無駄にせず、とことん使い切るのが内子町の流儀。山から湧き出た天然水も調味料となり、清冽な味わいをつくりあげています。

食を愉しむ宿

Uchiko inn
travel like a rocal

旅先のお楽しみは
内子に根付いた
ゆかしい食文化。

旅の魅力は「出会い」にあります。
心に染み入る情景、あたたかい人、
そしてその土地と水で育まれた
宝物のような食材の数々。
何一つ無駄にすることなく
自然への感謝を込めて料る美味は
どんな高級食材よりも心に残るはずです。

石畳の宿

囲炉裏を囲む和みの時

石畳の宿

白壁・土蔵造りの建物が並ぶ内子町の八日市・護国の町並みから車で約20分、「石畳地区」は美しい棚田とゴットンゴットンと回る水車、鎮守様へと誘う屋根付き橋など、懐かしい里山の風景が残る地区。地区を流れる麓川にかつて30数基もあったといわれる水車を復元し、稲木で天日干しをした米の脱穀をしています。そんな風情の地区に、古民家を移築した宿泊施設「石畳の宿」がつくられました。おもてなし役は地元の農家、隣家のお母さんたち。囲炉裏で焼いた川魚、花や山野草の天ぷら、水車で脱穀した米を使うご飯ものなど、里山の宿ならではの美味も評判となっています。客室にはテレビも時計も置かれておらず、日常を忘れてゆっくりとくつろげるのも魅力。パチパチと炭が爆ぜる囲炉裏を囲み、しみじみとした時間が過ぎていきます。

石畳地区にある懐かしい佇まいの宿。囲炉裏でじっくりと焼きあげた清流育ちの川魚は名物料理のひとつ。この囲炉裏で使うのは、地元で焼いた炭ということだわりも。懐かしい生活用具や季節の花がインテリアとなっています。

P22　1-B

あたたかなおもてなし

御宿　月乃家

「御宿　月乃家」は、八日市・護国の町並みに残る古民家を活用した、懐かしい風情を感じさせる民宿。ゆったりとした土間から和室へと上がれば、そこには昔懐かしい囲炉裏をしつらえた部屋があります。客間は1階と2階、合わせて4部屋。通りに面したお部屋からは町並みを望むことができます。格子越しに見下ろす八日市・護国の町並みは風情もひとしお。「内子の先人たちが育んできた人情を旅人におすそ分けするように、飾らず、自然体でおもてなしをしたい」と話す女将さん。野菜や山菜、川の幸など地元の食材をふんだんに使ったおもてなし料理も好評です。4部屋合わせて　12名まで宿泊できますから、親しい仲間との旅行にもうってつけ。この町並みで生まれ育ったかのような気分にひたりながら、しばしの『里帰り』を楽しみましょう。

通りから土間、そして囲炉裏の間へと旅人を誘う。ぱちぱちと炭の爆ぜる音を聴きながら癒しの時間をどうぞ。庭に置かれた睡蓮鉢など、さりげない情景に心が和むはず。客室からは町並みを眺めることができます。

P22　2-B

内の小話 その2

この町は森とともに歩み木とともに生きる

周囲を山々に囲まれた内子町は、典型的な中山間地域。平地は少なく町の面積の7割以上を山林が占めています。森の木々は私たちの暮らしにたくさんの恩恵をもたらします。よく知られているのは空気を浄化し、酸素を生み出す働き。地球温暖化の防止にも大いに役立っています。そして野生の生き物を守り、生態系を未来につなげてくれるのも森林のチカラ。さらには大地に根をはることで、土壌を抑え、枝葉や落ち葉により保水を行う「緑のダム」でもあります。そればかりではなく、木々が与える癒しは、人々に心地よい時間を提供してくれます。

内子町の森は、町の発展を支えてくれた立役者でもあることをご存知でしょうか。多くの人が足を運ぶ「上芳我邸」は主屋が明治27年（1894）、附属屋が明治30年代後半に完成しました。桁行15・9メートル、梁間12メートルの切妻造・2階建ての主屋は堂々とした建物で、木蝋で栄えた内子町の歴史を物語る貴重な建物。言うまでもなく建物に用いられている建材は木と土、石、漆喰などすべて自然素材です。とりわけ木に関しては、すべて内子町の山林から運ばれてきたものであるとされています。クリ、サクラ、松、杉、ツガ、ケヤキ、モミ、ヒノキ…。多種多様の木材が、硬さや色合い、強さ、撥水性などその性質によって使い分けられており、まさに適材適所の施工が成されているのです。

建築においては、優れた技術を持つ匠の存在も見逃せません。「木組み」、「土壁」、「石場建て」などの伝統構法の技も、「上芳我邸」を支えています。「木組み」は木を組み合わせる部分に仕口や継手と呼ばれる細工を施し、金物などを使わずに木材を連結させる手法。墨付けを行い、鑿で削ることで凹凸をつくり、強固な構造を生み出していきます。「土壁」は竹などで小舞と呼ばれる下地をつくり、そこに土を塗りこめて壁に仕上げていきます。「石場建て」は基礎となる石の上に柱を刺して行う土台づくり。床下の通気を良くし、地震などの際には家にかかる負荷を軽減させることができます。こうした伝統構法を用いて建てられた建物は、日本の気候風土にかなっているため、100年、200年という長い時を経てなお生き続けるのです。

森を森として守っていくためには、植林を行った山を自然のままにほうっておくのではなく、人の手を加え続けることが大切です。植林、間伐、伐採、そして植林。その循環を続けていくことが森を守り、山を守ることにつながるのです。内子町には、「上芳我邸」だけではなく、たくさんの木の建物があります。これらの建物を通して、森の大切さを知って欲しいと心から願っています。

良材に恵まれた内子町には、たくさんの優れた匠がおり、その技を次世代へと引き継いできました。そうした職人たちが、町内産の木材を使い、カトラリーやお弁当箱、行灯などをつくり、森の文化の継承に努めているのも、実に内子町らしい取り組みといえるでしょう。

杉やヒノキ、クヌギなどの森に囲まれた内子町。中でも木々の宝庫となっているのが小田深山。面河川の支流に展開する渓谷美は、見るものを圧倒する美しさです。その周囲は山々に囲まれ、ブナの原生林が残されています。

森とともに生きる内子町、
木々が呼吸する宿へ。

森を感じる宿

Uchiko inn
travel like a rocal

百年、二百年と生き続ける
内子の森の木々は
たくさんの動物と植物を育み
産業を支え、暮らしを守ってきました。
そんな森の呼吸は宿からも感じられます。
木のぬくもりに包まれながら
ゆるり癒しのひと時を。

棚田に見守られた小さなお宿

泉谷の宿 花穂

内子町中心部から車で約30分、泉谷地区は標高平均470メートルの山あいに位置しています。北西に向かって開けた約4ヘクタールの斜面には、93枚の棚田が広がっており、その情景はまさに日本の原風景そのもの。「日本の棚田百選」にも選ばれた棚田は、この地に住む住民と棚田オーナーの皆さんの手で大切に守られています。そんな棚田を見下ろす特等席にあるのが、「泉谷の宿 花穂」。農家の離れをリノベーションしたこぢんまりとした一棟貸しの宿です。キッチンがあり、食事は自炊が基本となりますが、嬉しいのはブランド米として人気の「泉谷棚田米」を提供してもらえること。ピカピカ、ツヤツヤのご飯は、何よりのご馳走です。また事前に予約をしておけば、近くにある水車小屋で田舎料理体験も可能。夜は満点の星空を眺めて、リフレッシュしてください。

窓の外に広がる原風景を眺めながらほっこりとした時間を。気温の寒暖差が大きく、水源に近い環境で育った棚田米は、じっくり天日乾燥することで美味しい味わいに。「おかずいらず」の棚田米をお腹いっぱい食べましょう。

P22　7-D

1日1組限定の隠れ宿

中芳我邸ゲストハウス

中芳我邸の中にある蔵をリノベーションしたお宿。玄関では陶器の馬がお出迎えし、広々とした庭をはさみ、母屋とはほどよい距離にあるゲストハウスです。1階の和室は約10畳の広さがあり、ゆったりとくつろげます。寝室は2階に。

P22　2-B

江戸時代から明治時代にかけて木蝋産業の中心地であった内子町。その象徴とも言えるのが、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されている八日市・護国の町並みです。約600mのゆるやかな坂道沿いには、海鼠壁（なまこかべ）や鏝絵（こてえ）、虫籠窓（むしこまど）で装飾された白壁・土蔵造りの民家や商家が軒を連ねており、まるで江戸・明治時代にタイムスリップしたかのよう。そんな町並み沿いにあるのが、中芳我邸ゲストハウスです。広い庭をもつ中芳我邸にある白壁の土蔵を改装したゲストハウスは、1階に約10畳の和室、2階にツインベッドを置いた洋室。1日1組だけを迎え入れる隠れ宿として営業しています。基本は素泊まりなので、ミニキッチンや冷蔵庫も用意されています。多くの利用者は町内の飲食店へ足を運び、地元の方とのふれあいを楽しんでいます。

内子の宿MAP

古き良き時代の面影を残す内子町に
ひっそりとたたずむ個性あふれる９軒の宿で
ずっとその町で暮らしているかのように
ゆっくりと穏やかな旅をしませんか。

石畳の宿
住 愛媛県喜多郡内子町石畳2877
営 CHECK IN15:00～/CHECK OUT～10:00
☎ 0893-44-5730

中芳我邸ゲストハウス
住 愛媛県喜多郡内子町内子2655
営 CHECK IN16:30～/CHECK OUT～10:00
（チェックインは前もってご連絡をいただければ18:00まで対応いたします。）
☎ 0893-50-6270（上芳我倶楽部）

内子の宿 久
住 愛媛県喜多郡内子町内子1949
営 CHECK IN15:00～18:00/CHECK OUT～11:00
☎ 0893-44-5735

御宿 月乃家
住 愛媛県喜多郡内子町2646
営 CHECK IN15:00～/CHECK OUT～10:00
☎ 0893-43-1160

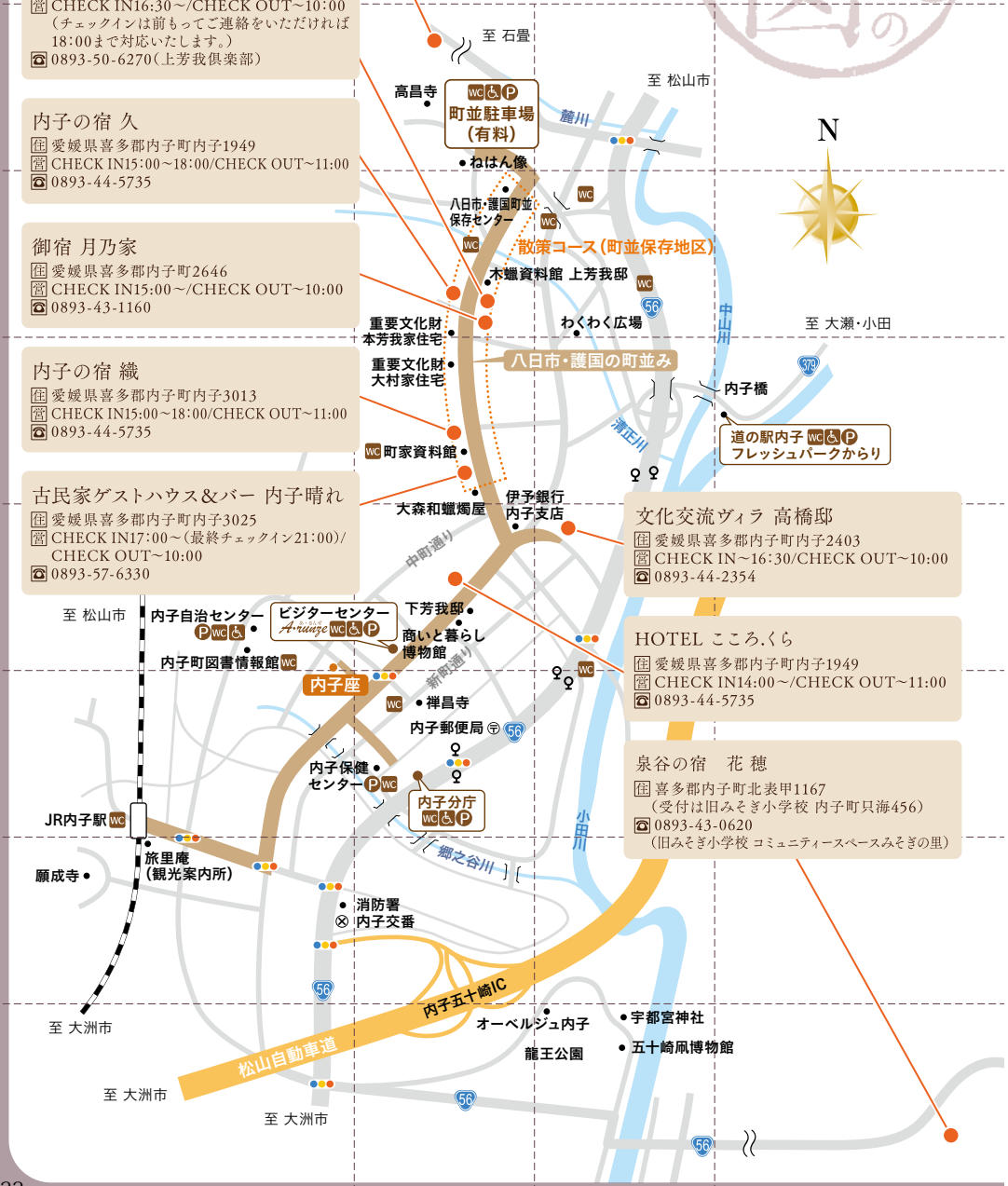
内子の宿 織
住 愛媛県喜多郡内子町内子3013
営 CHECK IN15:00～18:00/CHECK OUT～11:00
☎ 0893-44-5735

古民家ゲストハウス&バー 内子晴れ
住 愛媛県喜多郡内子町内子3025
営 CHECK IN17:00～（最終チェックイン21:00）/CHECK OUT～10:00
☎ 0893-57-6330

文化交流ヴィラ 高橋邸
住 愛媛県喜多郡内子町内子2403
営 CHECK IN～16:30/CHECK OUT～10:00
☎ 0893-44-2354

HOTEL こころ.くら
住 愛媛県喜多郡内子町内子1949
営 CHECK IN14:00～/CHECK OUT～11:00
☎ 0893-44-5735

泉谷の宿　花穂
住 喜多郡内子町北表甲1167
（受付は旧みそぎ小学校 内子町只海456）
☎ 0893-43-0620
（旧みそぎ小学校 コミュニティースペースみそぎの里）



風流を語るひとときを
文化交流ヴィラ高橋邸

離れの宿泊棟は１棟貸しになっています。10 名まで宿泊可能なので、数家族でのんびりと過ごすのもおすすめ。夕食は付きませんが、じゃこ天など地元の名物をいただける朝食には対応。母屋には高橋翁の功績を語る資料も展示。

P22　4-C

数ある内子町の宿の中で、ひときわ異彩を放っているのが、この「高橋邸」。内子町出身の実業家・高橋龍太郎翁の生家を見学や休憩、宿泊ができる施設として整備しています。高橋翁はアサヒビールやサッポロビールの前身である大日本麦酒に入社し、本場ドイツで醸造技術を習得し、日本のビール造りの礎を築き上げた「日本のビール王」。また野球の球団オーナーなども務めて、スポーツの普及振興でも功績をあげました。さらには通産大臣や日本商工会議所の会頭も歴任し、大正と昭和の政界と経済界を牽引した人物です。

母屋は見学の受け入れのほか、カフェとしても営業しており、自由に入館することができます。またギャラリーや貸しスペースとしても利用可。敷地内にある離れは、ゲストハウスとして営業。この２階建ての離れは、古き良き日本の趣を感じさせる造りで、豪華さはありませんが、吹く風や差し込む月の光とともに、風流な一夜を過ごせると海外からの旅行者からも人気となっています。建物には「止談風月無用者可入」という札が掛かっていますが、これは「風月を談じるなら、用がなくても入りなさい」という意味。この建物で日本の一時代に活躍した名士の生涯に想いを馳せつつ、心豊かな時間を過ごしてみませんか。